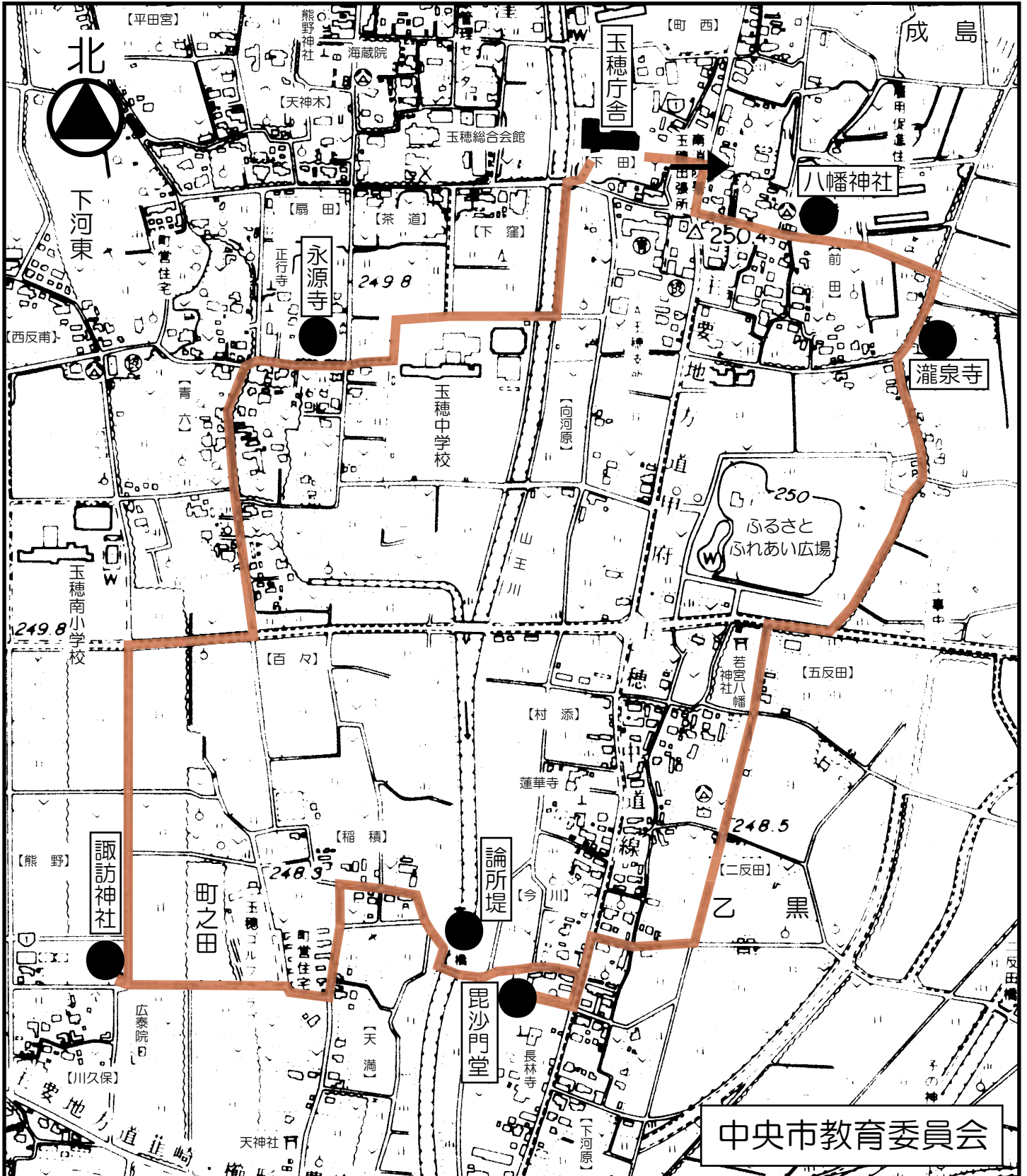


ふるさとウォーキング

～玉穂地区～



①八幡神社（成島）



成島の八幡神社は古来から稲積の庄の鎮守として栄えた古社で、甲斐国志には正殿、拝殿、隨身門ずいしんもん、石鳥居等があると記載されています。

隨身門とはお寺の仁王門に相当する門で、仁王に当たる隨身かどりのかみはか闍神またはか看どのおさ督長といひます。

現在、隨身門は残っていませんが本殿内に神身二体が安置されされており、今はなき隨身門に安置されていた隨身像と思われます。隨身像背面には「文正二年（1468）」と墨で書かれており室町時代の作であることがわかっています。この時代の隨身像は県内では珍しく貴重な存在といえます。

メモ

「七月廿二日ハ昔シ八代郡白井河原村（旧中道町）諏訪明神巨摩郡今諏方村（旧白根町）へ神幸アリ 其ノ節当社御休場ト為ル」（甲斐国志）

旧中道町の諏訪神社から旧白根町への神幸（神社の神体が鎮座する神社から他所へ移動すること）の際に八幡神社が休憩所となっていたようです。

②瀧泉寺（成島）

本堂にはみごとな木彫の釈迦如来像が祀られています。この像の右袖内に納入されていた胎内書付には

「南無釈迦牟尼佛下易千部御本尊（一行略）

甲斐国 宝塔山遠光寺廿四世日能代

元禄六壬戌年十月十三日京大佛師伊藤大内蔵作

一乗院宗言日教 身延

實相院妙巖日庄 智信日受」

とあります。この像は遠光寺（甲府市）から移されたものであることがわかります。

メモ

釈迦如来像の右袖をよーく見ると中になにやら紙が。上の文章はこの紙に書かれています。



③毘沙門堂（木造毘沙門天・持国天立像）



この場所には善乗寺という寺があり、毘沙門堂は善乗寺に属していました。両像の製作時期は古く平安時代末の作と推定されています。

メモ 毘沙門天（多聞天）と持国天は、元来、四天王のうちの二天です。四天王とは須弥山（しゆみせん 仏教の世界観で世界の中心にあるという高山）の四方位に住し、仏法を護る四神のことです。四神には持国天（東）、増長天（南）、広目天（西）、多聞天（北）があります。

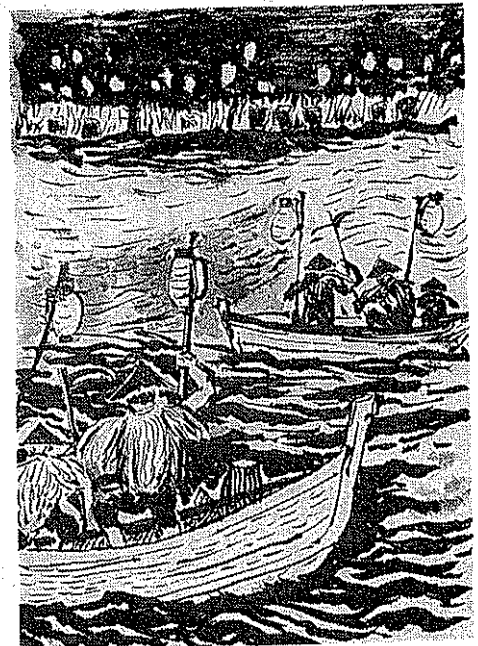
④論所堤（町之田・乙黒）

今川を挟んだ地域の水の争いは、天明（1781～1789）の時代から明治初年まで続きその古文書は玉穂地区からたくさん発見されています。

乙黒村と町之田村の堤の高低やその工事をめぐり利害が周辺の村々をまきこんだ大きな争いです。

メモ 高低の目安として嘉永三年（1850）に「御定杭」を乙黒・町之田村地内の論所三ヶ所に打ち込み、以後の工事はこの杭を基準としました。しかし、安政元年（1854）の大地震ではその位置を見極めることができないほどの大被害を受けた記録が残されています。

近年、東海地震等巨大地震の発生が心配されていますが、現代の地震の予測にもこのような昔の地震記録は非常に重要な役割をもっています。



ちょうちんぶらんこ

水争いは民話としても伝えられています。

上の絵はその一場面。

⑤ 諏訪神社（町之田）

拝殿の裏手に姥神うばがみの石祠いしほこらがあります。姥神さまの伝説が伝わっています。



「弓建嶺（前略）山頂一層高キ処ニ松林アリ伝へ云ウ 浅利ノ与市一日此ニ射獵シテ北方一町畠ノ田間ニ白鷺ノ啄バムヲ臨眺シ乃チ一発シテ殪ス 行キテ之ヲ検スレバ白衣ノ老婆躑行シテ田螺ヲ拾ウナリキ 此ノ間径直凡ソ一里許リナリ 後人石弓ヲ造リテ此处ニ建テ与市ノ石祠ヲ置キテ以テ表トスト云ウ」 『甲斐国志』

概略

浅利与一が狩猟していたところ、一町畑の田に白鷺さぎがタニシついでを啄つばんでいるのが見えました。一発で射倒して近くへ行って調べてみると、なんと白衣を着た老婆でした。老婆を白鷺と誤って射殺してしまったのです。その霊を鎮めるために石祠を祀ったということです。

メモ

浅利与一は約 1 km 先のおばあさんに矢を命中させたこととなります。ちょっと現実的ではありませんが、この距離こそが実は浅利与一の勢力を現しているのかもしれませんが。浅利氏は旧豊富村を中心に一町畑、花輪、大田和まで勢力を広げていました。この「力」の比喩が 1 km の飛距離と考えることもそれほど無理な話でもないような気がします。

昔話によって伝えられる歴史は少なくありません。

⑥ 永源寺（下河東）

永源寺は、慶長年間（1596～1615）、竜華院六世愚庵宗智によって再興された寺といわれていますが、その草創は古く、平安時代後期にさかのぼると伝えられています。寺域は室町時代中期の応永の頃、甲斐守護武田信満の次男右馬助信長を補佐した武将加藤入道梵玄の屋敷跡ともいわれ、今も周囲にめぐらされた堀の一部が門前に長く残っています。

長い歴史をもつ永源寺には多くの文化財が残されています。

- 1、木造聖観音菩薩立像（国指定重要文化財）
- 2、木造普化禅師坐像（市指定文化財）
- 3、古文書・葵金具付御簾二竿（市指定文化財）
- 4、明暗寺屋根瓦（市指定文化財）

メモ

門前には大きな堀が残され、水をたたえています。もとは12mはあり、側面でも9m幅だったといいます。堀がぐるりと寺地を囲んでいたようです。

「寺境ノ外隄広ク亘リテ由アル地ト見エタリ」『甲斐国志』



中央市教育委員会
生涯教育課社会教育担当

tel 055-274-8522

fax055-274-7132